

事業名		成人学習事業（単発講座）			
予算	歳入予算（円）	歳入実績（円）	歳出予算（円）	歳出実績（円）	
令和4年度	材料費12,000	材料費24,500	報償費196,800 需用費50,000	報償費160,800 需用費47,235	
令和5年度		材料費3,900	報償費196,800 需用費50,000	報償費78,300 需用費14,075	
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則			
	市の基本計画	狛江市前期基本計画 まちの姿6「生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-①「地域における学びの充実」方向性2「生涯を通じた学びの実現」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針（4）生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり「地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。」			
事業目的	成人に教育・学術・文化に関する事業を行い、教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興社会福祉の増進に寄与する。		持続可能な開発目標（SDGs）		
事業内容	開催頻度	5回実施			
	新規・継続	継続	実施主体	市	
	実施対象	市民	参加者数	延94人	
事業評価 ＜評価視点＞	評価項目	評価理由			
	A：進捗している・期待どおりの成果がでている	＜企画・計画性＞ 実施するにあたって企画を深められたか 計画的に実施することができたか	▼参加型・講座型の両方をバランスよく企画・実施できた。 ▼一つ一つの講座を個別に職員が企画しているため、ターゲット層の近い講座を近い日程で続けて実施してしまった。		公民館 B 公運審 B
		＜周知＞ 市民に周知されているか	▼半数の講座で定員を超える申し込みがあり、定員に近い人数に参加していただくことが出来た。 ▼広報、ポスター、SNS等様々な媒体で集客できており、市民に広くアプローチできたと言える。		公民館 B 公運審 B
	B：現状維持・ある程度の成果がでている	＜実施・運営＞ 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面、時間等は適切であるか	▼人員や設備について不満の声が上がることなく、適切な講座運営ができていたと言える。 ▼参加型の講座では、時間が足りなかったという意見が複数あげられていた。		公民館 B 公運審 A
		＜満足度＞ 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	▼事業全体を通して、「大変良かった」「良かった」との回答が9割を占めており、続編を希望する声も多数寄せられたので、参加者に満足いただける講座を実施できたと言える。 ▼定員を超える応募を受けた講座もあり、市民のニーズに沿った講座を企画できたと言える。		公民館 A 公運審 A
	C：あまり進捗していない・あまり成果がでていない	＜達成度＞ 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	▼多様な世代の市民に参加いただいております、「生涯を通じた学びの実現」に寄与できたと言える。 ▼本場ウクライナの方に講師を務めていただいた「ピサニキを作ろう」の講座では、海外の文化に触れる機会を提供することができた。		公民館 A 公運審 B
D：まったく進捗していない・まったく成果がでていない					
今後の課題	▼職員同士で連携を取り、参加型・講座型だけでなく、実施時期や扱う内容、対象となる年齢層等に関しても、1年を通してよりバランスの取れた企画をしていく必要がある。 ▼当日キャンセル等の事情により、参加者に空きが出てしまっているため、なるべく空きが少なくなるような工夫をする必要がある。 ▼例えば、似顔絵講座では、若年層の参加が多くなることを想定していたものの、20～30代の参加者は1名のみとなっている。若年層にもっと参加してもらえるような工夫をする必要がある。				
総合評価	▼職員同士の連携を密に取り、年度ごとに計画を作成するなど、実施時期や内容の調整を実施していただきたい。 ▼講座間の比較、検討ができるよう、アンケートの集計方法を統一していただきたい。 ▼周知や申し込み方法等について、対象となる年齢層を考慮し、適切な方法を選択していただきたい。				